岸和田城周辺 まち歩きマップ

【2023年7月版】

江戸時代のはじめに
城下町として栄えた城郭や、
紀州街道沿いの古いまちなみ。
大正、昭和へと紡績などで発展した
面影が残る、個性的な建築物の数々…
だんじり祭とともに素晴らしいものを残してきた、
岸和田城下町の人々。
和菓子やご当地グルメ、岸和田の郷土食に挑戦。
祭礼衣装、だんじりグッズに納得！
そして、社寺仏閣、建築物、資料館などを
ぶらぶら再発見してみませんか？

看貫場

やりまわしの名所 看貫場
大北の港の名残

岸和田駅前通商店街

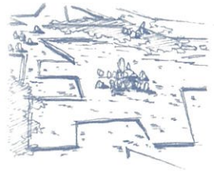
だんじりが駆け抜ける商店街!
だんじりカラクリ時計は必見!

こなから坂

岸和田だんじり祭
宮入直前の見せ場!

本町のまちなみ

十六軒長屋



海側

山側

至 なんば駅

天神宮通り商店会

岸和田天神宮
(沼天神)
だんじり祭の
神事として
沼町、筋海町などの
だんじりが宮入する。

観光案内所

南海本線岸和田駅

福祉総合センター

野田町商栄会

岸和田古城跡

岸和田駅南

市立図書館

武家屋敷
(非公開)

岸城神社

岸和田高等学校「解体新書」なども収蔵!

国指定名勝 岸和田城庭園(八陣の庭)

作庭家重森三玲によって回遊式枯山水庭園として作庭された。国の指定名勝で、天守(展望台)から全容を見ることができる。

岸和田城
(千亀利城)
岸和田城庭園
(八陣の庭)

二の丸広場

二之丸御殿跡

観光交流センター

伏見櫓跡

五風荘

薬園跡

マンサード長屋
モダンな腰折れ式屋根
大正時代の
洋風集合住宅

十六軒長屋
現在も暮らしが息づく
大正末期の和風建築

南海
蛸地蔵駅
駅舎

蛸地蔵商店街

蛸地蔵駅下り

至 和歌山市駅

岸和田駅→岸和田カンカンまで約12分
岸和田カンカン→だんじり会館まで約16分
だんじり会館→岸和田城→岸和田駅まで約15分
だんじり会館→蛸地蔵駅まで約7分

凡例
- トイレ
- 名所
- 観光案内板
- 商店街

沼町

五軒屋町

堺町

城見橋

岸和田駅前通商店街

コシノ三姉妹の生家

緑の街角
ひろば

旧交野無尽金融
岸和田支店

堺阪南線

城見橋筋商店街

旧 泉州銀行
本店

和田家住宅
(非公開)

岸和田港塔原線

市立中央公民館

杉江能楽堂

市立自泉会館

元睦会館

市役所本館

岸和田高等学校グラウンド

市役所別館

市役所
第2別館

五十一
銀行跡

円成寺

中町石垣筋

本町の
まちなみ

吉田松陰の
逗留地

千亀利展望広場

駐車場

まちづくりの館
休憩してね

岸和田
だんじり会館

一里塚弁財天

日本基督教団
岸和田教会

三の丸神社

光明寺

梅渓寺

蛸地蔵天性寺

岸和田港

大阪臨海線

菊右衛門橋

紀州街道

小門貝源
紀州街道への
やりまわし難所
左小門、右貝源

岸和田
カンカン
ベイサイド
モール

旧和泉銀行

浪切神社

市立浪切ホール

立体駐車場

岸和田中央会館
レトロな商店街
入り口のレトロ建築物

かじやまち

ふぐ博物館

路地に囲まれた
昔ながらの商店街

寺町筋

西方寺

本昌寺

円教寺

本徳寺

正覚寺

高見観音

欄干橋

船津橋

堺口門跡
意図的に作られた
クランク状のマス形門

旧 四十三銀行

内町門、北大手門跡
城下町特有のマス形門は
敵の侵入を阻止!

きしわだ
自然資料館

至 阪神高速湾岸線 岸和田南I.C.

岸ぶら kishibura.jp
岸和田市観光振興協会
公式コミュニティサイト「岸ぶら」
http://kishibura.jp/

(2023.7.14,000)

① 岸和田城〈千亀利城〉

岸和田城がいつ、誰が建てたのか定かではないが、戦国時代（16世紀中頃）には、当時泉州地方を治めた松浦氏の居城として現れる。慶長2年（1597）には、豊臣秀吉の叔父小出秀政によって天守のある城郭として整備された。その後、寛永17年（1640）岡部宣勝が入城、以来明治維新までの230年間、岡部氏が泉州統治の拠点とした。岸和田藩は5万3千石であったが、城の規模は30万石級の大藩の城に匹敵するほどの豪壮さであった。威容を誇った5層の天守は、文政10年（1827）雷火により焼失。以後長らく再建されずにいたが、郷土への思いをよせる市民の要望から、昭和29年に再建された。また、現在では天守閣で結婚式も行なわれている。

●開場時間／10:00～17:00（入場は16:00まで）
★休 場 日／月曜日（祝日・休日の場合及びお城まつり期間中［4月1日～15日］の月曜日は開場）
12月29日～1月3日　展示替期間（臨時休場）

② 岸城神社

創建は正平17年（1362）、京都の八坂神社より素盞嗚尊（スサノオノミコト）を隣村に勧請したのが始まりである。のち、岸和田城主小出秀政が城内に遷し、この神社を岸和田城の鎮守神とするようになった。現在は、契りのお宮として、縁結びを求める多くの人々からの崇拝を集めている。また、岸和田祭には15台のだんじりが宮入りする。

③ 武家屋敷 非公開

江戸時代、現在の岸城町一帯は上級家臣団の住宅地であった。往時の岸和田城内を偲ばせる武家屋敷が見られる。長屋門が築地塀を介して連続して並んでおり、藩政期の武家住宅地の景観をよく伝えている。

④ 五風荘 市指定文化財

旧岸和田城内の新御茶屋跡などに昭和4年から10カ年の歳月を要し、造営された広壮な回遊式日本庭園。正門は奈良東大寺塔頭中性院表門を移築したもので、岸和田にゆかりの深い楠木氏の「楠」の字をもじって「南木門」と称されている。約2500坪の敷地には日本建築の粋をこらした主屋と庭園を見渡せる三つの茶室がある。庭園の散策が出来、食事も楽しめる。

⑤ 南海電気鉄道南海本線 蛸地蔵駅西駅舎 国登録有形文化財

大正14年に築かれた南欧風の駅舎。南海本線では大正以前の駅舎は数棟しか残存しておらず、貴重な存在となっている。壁面には蛸地蔵縁起のステンドグラスがはめこまれている。

⑥ 三の丸神社

だんじり祭発祥の宮と言われている。今から約300年前の元禄時代、時の藩主・岡部長泰は、京都から伏見稲荷を城内の三の丸に勧請し、広く領民に参拝を許した。この時行われた稲荷祭がだんじり祭の始まりだと伝えられている。

⑦ 岸和田だんじり会館

だんじり祭の魅力を一堂に集めたテーマ館。館内には、現存する岸和田最古のだんじりをはじめとする豊富な資料の展示などがあり、岸和田だんじり祭の雰囲気を一年中いつでも体験できる。

●開館時間／10:00～17:00（入場は16:00まで）
★休 館 日／月曜日（祝日・休日の場合は開館）
12月29日～1月3日

⑧ 市立自泉会館 国登録有形文化財

関西建築界の草分け的存在、渡辺節により設計されたスパニッシュスタイルの建築物。元岸和田紡績株式会社の社交場として昭和7年に建てられた。現在は、ギャラリー・ミニコンサートホールなどの施設として利用され、地域の文化振興に大きな役割をはたしている。

⑨ 本町のまちなみ

本町・紀州街道沿いは、江戸時代、岸和田城下で最も賑わう通りであった。今日でも本瓦葺き・中二階・出格子などの伝統的な造りの家並みに、往時を偲ぶことができる。また、地元住民の手により、歴史の道にふさわしい景観づくりが行われており、建設省より「手づくり郷土賞」を受賞している。

⑩ 一里塚弁財天

一里塚とは、全国の主だった街道沿いに、一里（約3.9km）ごとに設けられた路程標である。江戸時代、陸路を旅する人は一里塚に植えられた松の木の下で、しばしの休息をとったものと想像される。

⑪ 光明寺

開基不明。元は岸和田城の北側にあったが元亀2年（1571）泰誉が現在地に移し中興する。かつては岸和田城伝馬口門と西大手門を固める要衝を占めていた。江戸時代初期の藩主松平康重の念持仏と伝えられる阿弥陀如来立像が安置されている。

⑫ 樽渓寺

岡部宣勝が高槻から岸和田に移封した後、亡母の菩提を弔うため建立した。宣勝の母洞仙院は徳川家康の妹に准じられ寺名はその戒名からつけられた。

⑬ 蛸地蔵 天性寺

「蛸地蔵縁起」によれば、天正年間（1573～92）、岸和田城は根来・雑賀衆に攻められ、落城寸前であった。その時、大蛸に乗った一人の法師と数千の蛸がどこからともなく現れ、敵兵をなぎ倒し、城の危機を救った。その数日後、城の堀から矢傷・弾傷を無数に負った地蔵が発見され、城内に大切に収められた。その後、天性寺に移され、今に至る。また、境内に奉納された絵馬は蛸地蔵にふさわしく“蛸絵馬”になっており、一枚一枚手書きで描かれている。願をかけるものは「一切タコを食さない」“蛸断ち”が必要。

⑭ まちづくりの館

昔ながらの民家や商家が並ぶ紀州街道に、平成9年9月に開館。地元住民の集会施設や観光客の休憩所として活用されている。ここでは市内の観光物産の案内やお茶の無料サービスが受けられる。

★休 館 日／月曜日（祝日・休日の場合は開館）
12月29日～1月3日

⑮ 円成寺

信濃国住人加藤主計（法名釈専称）が天文5年（1536）建立したと伝える。真宗大谷派。現在の本堂は江戸初期の建築である。

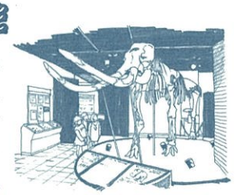
⑯ 旧四十三銀行

赤いレンガ調タイルとベージュの花崗岩。ツートーンカラーの堂々としたこの建物は、内部に柱が一本もないつり天井になっている。大正9年建築。現在は金融機関として営業しており、建物内部の見学は受け付けていない。

⑰ 紀州街道

大阪高麗橋を起点に住吉・堺・岸和田を経て和歌山に至る江戸時代の幹線道。慶長7年（1602）頃整備され街道沿いには豪商などの町家が立ち並んでいた。

⑱ きしわだ自然資料館



身近な自然から、環境問題までを楽しみながら学ぶことができる資料館。館内には、和泉葛城山のブナ林のジオラマ、市街地に生きる動植物の標本、映像ライブラリーなどの数多くの自然に関する資料を親しみやすく展示している。とくに北極熊やベンガルトラなど300点の剥製の収集展示は見事。

●開館時間／10:00～17:00（入場は16:00まで）
★休 館 日／月曜日（祝・休日は開館）
祝・休日の翌日（翌日が土・日・祝日の場合は開館）
毎月末日　その他祭礼休館日（九月祭礼）
年末年始休館日
展示替期間（臨時休館）

⑲ 吉田松陰の逗留地〈久住邸〉 非公開

「嘉永6年（1853）2月、長州藩の尊皇論者・思想家である吉田松陰は大阪沿岸の警備状況を視察するために岸和田を訪れ、塩屋平衛門宅（現久住家）に滞在した。松陰は、岸和田に滞在中、藩儒でもあった相馬九方ほか藩士らと、藩校講習館の一室で囲炉裏を囲み、茶を飲み、せんべいをかじりつつ、夜を徹して時勢論や詩文論を議論しあった。この時、松陰は頻繁に姿を現すようになった外国船に対し海防が手薄であることをくり返し説いていたといわれている。

⑳ 観蔵院〈高見観音〉

高見観音は寛延4年（1751）に土生八幡宮の護摩堂を本尊十一面観音像と共に移して建立された。近年は節分の行事が盛大に行われ、当日は多くの人で大変な賑わいとなる。

㉑ 寺町筋

今なお城下町の面影を残す寺町筋には、円教寺、本徳寺などいくつかの寺がある。円教寺は、慶長5年（1600）時の岸和田藩主・小出秀政の菩提寺として建立され、境内のソテツは市の天然記念物となっている。本徳寺は明智光秀の子として伝えられる南国梵珪が開いた寺とされ、光秀の位牌と肖像画が残っている。

㉒ 市立浪切ホール

国際文化都市・岸和田のシンボルとして浪切ホールは歌舞伎をはじめ、演劇、コンサートから国際会議まで対応。最新鋭の設備を備え、文化発信基地として出会いと創造の場を提供する。

㉓ 二の丸広場観光交流センター

岸和田城前の二の丸広場に建つ交流センター。館内には、貴重な歴史資料の実物展示の他、市内にある文化財の紹介パネル等を展示している。無料休憩所としても利用でき、地元の野菜や泉州名物の水なすの浅漬けが購入できる。

●開館時間／9:00～18:00
★休 館 日／12月29日～1月3日

岸和田名物＆お土産品

食べちゃって

●ほかにも、泉タコ、ガッチョ、トビアラなど、泉州のサカナがおススメです。

●玉から
玉子のから焼き。噂のソウルフード。居酒屋でも OK！

●かしみん
ヒネのかしわに牛脂をトッピングした洋食焼き。探してみてね！

●ハモスキ、アナゴ
地元泉州の長いサカナがいけてますねぇ！

試しちゃって

古い城下町ならではの和菓子屋さんが多数。スイーツめぐりもおススメやし。

●だんじり型饅頭
そのまんまな造形が嬉しい。岸和田土産としてぜひ！

●氷くるみ
夏ならやっぱり！城下町のだんじりスイーツを試してやぁ！

忘れちゃいかん

●地酒
こちらもぜひお試しのほど！

●泉州水なす
一店一店、性格の違いを楽しんで！ぶらぶら歩いて、探して見つけてやぁ。

●だんじりグッズ
町別に色んなグッズが揃う。“だんじりカルチャー”の入門編です！

買うちゃって

全国のお祭り関係者が、こぞって購入する商品。ぜひお店で実物を見てやぁ！